

## 国際的人材育成のための多言語・多文化理解ワークショップの展開

国際教育交流センターアドバイジング部門

柴 垣 史

留学生を主な対象とした多言語・多文化理解、生活適応支援ワークショップを、学内外との連携を図りながら継続展開した。これまで同様、留学生にとっては日本の生活に慣れ、他の学生や地域の人たちと共に学べる機会となるよう、また、すべての学生にとって多文化コミュニケーション力や発信力、多文化適応力といった国際性を伸ばすことを目指した。

### 【日本文化講座】

これまでおこなってきた講義・実習を継続すると同時に講座内容の教材化を進め、本年度は着物講座の教材原稿の英文校正が終了した。講座内容の教材化により、講師と通訳者は共通理解のもと効率的に講座を準備でき、講座参加者は講座外でも理解を深め、有効な情報発信ツールを持つことが可能となった。

正規授業の基礎セミナー「日本文化の国際展開」とケンブリッジ大学短期研修プログラムと連携した講座では、必要経費の一部を教養教育院とプログラム寄付金から得て、講座をより充実させた。

また、折り紙講座においては、学内の折り紙サークルの学生達に参加を呼びかけた。書道や着物の講座においては、普段から交流のある旭ヶ丘高校より数名の参加を受け入れ、多様な学生たちの共修による、より幅広い交流や知識の共有の機会を提供した。

### 【世界の言語文化講座】

イスラーム文化と日本文化を比較しながら学ぶことを目的とし、外部から講師を招き講演をおこなった。「イスラム教からみた自殺」というテーマでの講演であったため、学内外の参加者が、精神健康のあり方を、宗教、文化から多角的に捉え、考察する機会となった。また、名古屋大学イスラム文化会の学生達との協働により、イスラム圏食文化紹介をおこなった。これらの

企画運営に多国籍学生たちが主体的に関わり、多文化調整力を養う機会ともなった。

アフリカ学生会が主催する文化紹介イベントにも連携協力したが、全学同窓会からの助成金が得られたため、本事業費からの支出はなかった。インドネシア留学生会やフィリピン留学生会からも連携の相談があり、来年度以降の実施に向けて検討している。

### ワークショップの実施状況

(トピック、講師、場所、日時、参加人数)

#### ◆日本文化

- ・華道（華道八代流 岡田佳恵）：国際棟201室、5月～7月、11月～1月（第三火曜日）及び7月11日 4限（各10-13名参加）
- ・折り紙（折り紙国際交流 白ゆり会 池井経子）国際棟CALEフォーラム、5月25日 5限（基礎ゼミ生を含む20名）
- ・着物（NPO法人ひとつなぎ駒 酒井育代）国際棟CALEフォーラム、7月6日 5限（ケンブリッジ大生、基礎ゼミ生、旭ヶ丘高校生含む24名）
- ・書道（藤井書道教室 藤井尚美）国際棟CALEフォーラム、7月13日 5限（基礎ゼミ生、旭ヶ丘高校生を含む18名）

#### ◆世界の言語・文化

- ・イスラーム文化と日本文化を学ぶ会（Islamic Circle of Japan 代表 前野直樹）ES総合館022室、12月1日 17:30-20:30（約80名）
- ・アフリカ文化紹介（アフリカ学生会設立記念会）、全学同窓会助成金によって実施  
アメニティーハウス、10月28日 15:00-18:00（約80名）